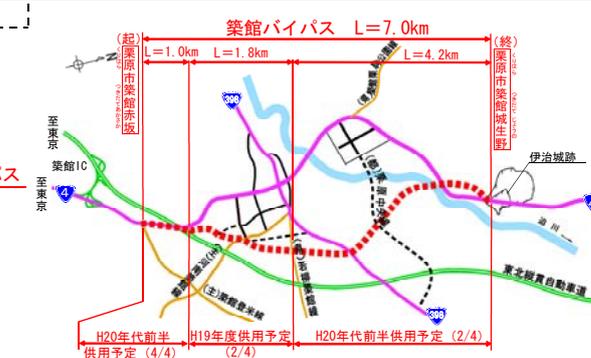


再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：下保 修

事業名 一般国道4号 <small>つきだて</small> 築館バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局								
起終点 自：宮城県栗原市築館赤坂 <small>くりはら つきだてあかさか</small> 至：宮城県栗原市築館城生野 <small>くりはら つきだてじょうの</small>	延長	7.0 km								
事業概要 築館バイパスは、栗原市内における一般国道4号の交通混雑の解消や交通安全の確保等を目的とした延長7.0 kmの4車線道路である。										
S58年度事業化	S56年度都市計画決定	H7年度用地着手								
H13年度工事着手										
全体事業費	180億円	事業進捗率 29%								
計画交通量	16,700台/日									
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6	総費用 (事業全体) 189億円 事業費：163億円 維持管理費：26億円								
		総便益 (事業全体) 308億円 走行時間短縮便益：290億円 走行経費減少便益：12億円 交通事故減少便益：5.8億円								
		基準年 平成19年								
感度分析の結果 事業全体について感度分析を実施										
【事業全体】	交通量変動：B/C=1.8(交通量+10%) 事業費変動：B/C=1.5(事業費+10%) 事業期間変動：B/C=1.3(事業期間+20%)	B/C=1.5(交通量-10%) B/C=1.8(事業費-10%) B/C=2.0(事業期間-20%)								
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間の削減） ・生活環境の改善・保全（夜間要請限度を超過している栗原市築館地区の沿道環境の改善が見込まれる） 他8項目に該当										
関係する地方公共団体等の意見 築館バイパスは、栗原市内の交通混雑の解消、交通安全の確保、沿道環境の改善に大きな役割を果たすことが期待されており、栗原市長等より早期整備の要望を受けている。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。										
事業の進捗状況、残事業の内容等 【執行済み額】事業費：52億円（進捗率29%） うち用地費：23億円（46%）										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 遺跡の取り扱いについて検討を進めているが、他の区間については事業進捗にかかわる問題は無く、起点側国道4号交差点～（県）若柳築館線のL=1.8kmについて、平成19年度の部分2車線供用を目標に事業推進を図る。平成20年代前半の暫定2車線全線供用を目指す。										
施設の構造や工法の変更等 「耐候性鋼材」を採用し、初期コスト及びライフサイクルコストともに経済的な維持管理のコスト縮減を図る。										
対応方針 事業継続										
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。										
事業概要図										
										
	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <td>■</td> <td>事業区間（今回対象区間）</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>高規格幹線道路</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>直轄国道</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>主要地方道・県道</td> </tr> </table>		■	事業区間（今回対象区間）	■	高規格幹線道路	■	直轄国道	■	主要地方道・県道
■	事業区間（今回対象区間）									
■	高規格幹線道路									
■	直轄国道									
■	主要地方道・県道									

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。